

# 寺田兵治郎(花外)と岸和田實業新聞

寺田兵治郎は万延元（1860）年4月に堺市戎之町27番地で生れた。明治20年4月に家督をつぎ、34年7月に岸和田市北町32番地に転居している。

寺田兵治郎は堺の小学校の教師として、堺高等小学校や熊野尋常小學校で校長も務めている。市会議委員を短期間ながらやり、市史編さん委員にも任命されていたのだが、理由は不明だが岸和田にやってきた。大正9年4月に堺市少林寺町西1丁に転居するまで岸和田にいた。在岸33年である。41才から74まで、彼は岸和田で暮したことになる。

岸和田に転居してすぐに月刊の「白水新聞」を発行する。寺田甚与茂の目にとまり新たに創刊した「岸和田實業新聞」の主筆となる。寺田元吉、岸村徳平、金納源十郎、宇野亮一などの財界人も出資した。次第に販路を広げ「和泉實業新聞」と改題して泉州を代表する地方新聞となった。「岸和田實業新聞」からは後に泉州の地方新聞を支える、山本梅史、勝井桜外、金田秀治郎、柿谷華王子、堀部栄、小西政治郎、松井烈、大江一二、上総天香などの記者を輩出した。

寺田兵次郎は大正3年から6年にかけて36巻3600頁に及ぶ「泉州史料」を編集・刊行した。丹念に史料を収集し残すべき史料を丹念に集めたもので、他で見ることの出来ない史料も多く後々の研究者の貴重な資料として活用されている。

「泉州官民人名録」は岸和田實業新聞の附録として発行されたもので、泉南・泉北に分けて官公署・学校・企業・団体主要職員の名録であり80頁にわたり2500名を超える人数を収録している。当時の状況を知る貴重な資料である。後には「泉州人名録」とタイトルを変更している。

明治42年1月1日発行第301号附録として「司法大臣官邸に於ける子爵岡部法相と其家庭」がある。最後の岸和田藩主であった岡部長職（ながもと）が第二次桂内閣で明治41（1908）年7月から明治44（1911）年8月まで司法大臣に任じられていた時に大臣官邸で撮影された家族写真です。家族が公にされることは少なく、貴重な写真といえます。

また岸和田實業新聞で印刷した絵はがきも数枚残されていて、当時の岸和田の様子が伺える貴重な資料である。岸和田實業新聞の関係で岸和田倶楽部なる建物が海岸沿いにあったことが伺えます。

## 岸和田實業新聞社刊行物

「泉州史料 第1～36巻（寺田兵次郎／編）」 大正3年～6年

「泉州官民人名録」岸和田実業新聞第1095号附録 大正5年1月

「泉州官民人名録」岸和田実業新聞第1272号附録 大正5年12月

## 絵はがき

工業地遠望

倶楽部ヨリ工業地

岸和田城址

岸和田城旧城址に見ゆ岸和田町半圓